

地理歴史 科 1 年		地理総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理総合	対象	スポーツ・進学	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE2022 (帝国書院), デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	学習方法習得体験学習 第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解することができる。	○	○		2
5	2 地図の役割と種類 【1学期中間テスト】	地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付けることができる。	○	○	○	4
6	第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解することができる。	○	○	○	1
	2 グローバル化する世界	グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解することができる。	○	○	○	4
8	第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活 【1学期期末テスト】	地形が人々の生活に与える影響を理解することができる。	○	○	○	7
	2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解することができる	○	○	○	6
9	追及事例 自然1	オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	2
10	追及事例 自然2 オセアニア 追及事例 自然2 東南アジア 【2学期中間テスト】	東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	2
11	3 世界の言語・宗教と人々の生活文化 追及事例 宗教1 イスラーム	言語と宗教が人々の生活に与える影響を理解することができる。 イスラームが人々の生活に与える影響や、経済発展による生活の変化を理解することができる。	○	○	○	1
	追及事例 宗教2 ヒンドゥー教	ヒンドゥー教が人々の生活に与える影響や、経済発展による生活の変化を理解することができる。	○	○	○	2
12	4 歴史的背景と人々の生活 追及事例 歴史1 ラテンアメリカ	冷戦時代を事例にして、歴史的背景が人々の生活に与える影響を理解することができる。 ラテンアメリカの歴史的背景を学び、産業や文化について理解することができる。	○	○	○	1
	追及事例 歴史2 サハラ以南のアフリカ	サハラ以南のアフリカの歴史的背景を学び、産業や文化について理解することができる。	○	○	○	2
12	5 世界の産業と人々の生活 追及事例 産業1 アメリカ合衆国 【2学期期末テスト】	農業や工業などの産業、およびそのグローバル化が人々の生活に与える影響を理解することができる。 アメリカ合衆国の産業力が育まれた社会的背景を学び、人々の生活に与える影響を理解することができる。	○	○	○	2
			○	○	○	3

1	第2章					
	1 複雑に絡み合う地球的課題	地球的課題の背景にある経済格差を学び、その解決に向けた取り組みを理解することができる。	○	○	○	1
	2 地球環境問題	地球環境問題の種類や背景を理解し、解決に向けての取り組みを理解することができる。	○	○	○	3
	4 人口問題	人口分布と人口増加の傾向を学び、発展途上国と先進国の人口問題を理解することができる。	○	○	○	3
2	第3部 第1章					
	1 日本の自然環境	日本の地形や気候の特徴を学び、形成要因や地域差を理解することができる。	○	○	○	2
	2 地震・津波と防災	地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解することができる。	○	○	○	2
	3 火山災害と防災	火山の分布、恵み、災害の特徴を学び、共生する自治体の取り組みを理解することができる。	○	○	○	2
	4 気象災害と防災	地域で異なる気象災害を学び、台風による水害や大雪による雪害の影響と取り組みを理解することができる。	○	○	○	1
	5 自然災害への備え	災害の被害を軽減するための取り組みを学び、被災地における自助・共助・公助を理解することができる。	○	○	○	1
	【学年末テスト】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 1年 地理総合 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	地理総合	対象	特進	コース	単位数 2単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE2022 (帝国書院), デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 (帝国書院) 新編 地理資料 2022				

1 学習の到達目標

①	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
②	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
③	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
④	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能）、b（思考・判断・表現）、c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解することができる。	○	○		2
5	2 地図の役割と種類 【1学期中間テスト】	地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付けることができる。	○	○	○	4
6	第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解することができる。	○	○	○	1
6	2 グローバル化する世界	グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解することができる。	○	○	○	4
8	第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活 【1学期期末テスト】	地形が人々の生活に与える影響を理解することができる。	○	○	○	7
8	2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解することができる	○	○	○	6
9	追及事例 自然1 オセアニア	オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	2
10	追及事例 自然2 東南アジア 【2学期中間テスト】	東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	2
11	3 世界の言語・宗教と人々の生活文化 追及事例 宗教1 イスラーム	言語と宗教が人々の生活に与える影響を理解することができる。 イスラームが人々の生活に与える影響や、経済発展による生活の変化を理解することができる。	○	○	○	1
11	追及事例 宗教2 ヒンドゥー教	ヒンドゥー教が人々の生活に与える影響や、経済発展による生活の変化を理解することができる。	○	○	○	2
11	4 歴史的背景と人々の生活 追及事例 歴史1 ラテンアメリカ	冷戦時代を事例にして、歴史的背景が人々の生活に与える影響を理解することができる。 ラテンアメリカの歴史的背景を学び、産業や文化について理解することができる。	○	○	○	1
11	追及事例 歴史2 サハラ以南のアフリカ	サハラ以南のアフリカの歴史的背景を学び、産業や文化について理解することができる。	○	○	○	2
12	5 世界の産業と人々の生活 追及事例 産業1 アメリカ合衆国 【2学期期末テスト】	農業や工業などの産業、およびそのグローバル化が人々の生活に与える影響を理解することができる。 アメリカ合衆国の産業力が育まれた社会的背景を学び、人々の生活に与える影響を理解することができる。	○	○	○	2
12			○	○	○	3

1	第2章					
	1 複雑に絡み合う地球的課題	地球的課題の背景にある経済格差を学び、その解決に向けた取り組みを理解することができる。	○	○	○	1
	2 地球環境問題	地球環境問題の種類や背景を理解し、解決に向けての取り組みを理解することができる。	○	○	○	3
	4 人口問題	人口分布と人口増加の傾向を学び、発展途上国と先進国の人口問題を理解することができる。	○	○	○	3
2	第3部 第1章					
	1 日本の自然環境	日本の地形や気候の特徴を学び、形成要因や地域差を理解することができる。	○	○	○	2
	2 地震・津波と防災	地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解することができる。	○	○	○	2
	3 火山災害と防災	火山の分布、恵み、災害の特徴を学び、共生する自治体の取り組みを理解することができる。	○	○	○	2
	4 気象災害と防災	地域で異なる気象災害を学び、台風による水害や大雪による雪害の影響と取り組みを理解することができる。	○	○	○	1
	5 自然災害への備え	災害の被害を軽減するための取り組みを学び、被災地における自助・共助・公助を理解することができる。	○	○	○	1
	【学年末テスト】					

地理歴史 科 1 年		歴史総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	歴史総合	対象	スポーツ, 進学 コース	単位数	2 単位
教科書	歴史総合		出版社 実教出版		
副教材	ゼミナール歴史総合 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・高校の歴史学習に積極的に取り組む姿勢を養い、以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ・空間的な広がりや自己との関係性を意識した学習へと視野を広げる。 ・過去の事象を考察するために、資料を活用する学習を通して、歴史の叙述には、諸資料の検証と論理性などが求められることを意識する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化, 国際秩序の変化や大衆化, グローバル化などの歴史の変化と, 日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し, 表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して, 資料から読み取った情報の意味や意義, 特色などを考察し, 表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科における学習の成果を生かし, 必履修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的, 歴史的な考察の方法やその特質について, 主体的に理解を深めようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト	定期考査 学力テスト	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容: 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点: a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習 第1章 近代化への胎動 1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2. 江戸時代の生産・流通と諸改革 3. 幕政の改革と東アジア世界 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習の体験学習をする。 ・17世紀, 東アジアの体制を理解する。 ・商品作物の生産と流通が, 国内外に与えた影響を理解する。 ・欧米諸国の接近に対して日本と清はどのような対応をしたか理解する。 	○	○	○	1
			○	○	○	
			○	○	○	
					○	

5	4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	・諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。	○	○	○	10
	5. フランス革命とウィーン体制	・フランス革命とウィーン体制で、政治体制はどのように変化していったのかを理解する。	○	○	○	
	6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのかを理解する。	○	○	○	
	7. オスマン帝国の衰退とロシア	・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたのかを理解する。	○	○	○	
	<u>一学期中間考査</u>					
6	8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのかを理解する。	○	○	○	1
	9. 江戸幕府の滅亡	・将軍や各藩はどのような政治体制をつくらうとしたのかを理解する。	○	○	○	
7	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成					
	10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一	・19世紀のイギリスとフランスの繁栄、イタリアとドイツが統一した経緯を考え理解する。	○	○	○	12
	11. 明治政府の諸改革	・明治政府は、どのような国づくりをすすめたのか考え理解する。	○	○	○	
	12. 日本のアジア外交と国境問題	・日本の北方、南方国境の問題や台湾・琉球などどのように国境を画定し、清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考え理解する。	○	○	○	
	13. 自由民権運動と大日本帝国憲法	・自由民権運動がめざしたのは、どのような国家だったのか。政党、立憲国家について考え理解する。	○	○	○	
	第4章 帝国主義の時代					
	14. 帝国主義の時代へ	・欧米諸国は、アフリカと太平洋の分割など、なぜ帝国主義の政策をすすめたのか考え理解する。	○	○	○	
	15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	・日清戦争は、何を目的にはじまったのか考え理解する。	○	○	○	
	16. 日清戦争後の東アジア	・日本と中国や朝鮮との関係、日本人の意識、清をとりまく国際情勢の変化について考え理解する。	○	○	○	
	17. 日露戦争と東アジアの変動	・日露戦争と韓国侵略、辛亥革命とその影響を考え理解する。	○	○	○	
18. 日本の産業革命	・産業革命によって日本の経済と社会、都市と農村の問題など、産業の発展と社会運動について考え理解する。	○	○	○		
	<u>一学期期末考査</u>					
8	19. 第一次世界大戦	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのか考え理解する。	○	○	○	1
9	20. ロシア革命とソ連の成立	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたか、革命が成功した背景にあったものを考え理解する。	○	○	○	
	21. 米騒動と大正デモクラシー	・米騒動のなかで人々は何を求めたのか考え理解する。	○	○	○	
	22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのか考え理解する。	○	○	○	
	23. アジアの民族運動	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜか考える。	○	○	○	
10	24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	・第一次世界大戦後の欧米諸国にはどのような動きがみられたか理解する。	○	○	○	

11	25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現	・社会運動をになった人々は、何を求めたのかを考え理解する。	○	○	○	14
	26. 世界恐慌と各国の対応	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのかを考え理解する。	○	○	○	
	27. ファシズムの時代 二学期中間考査	・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのかを考え理解する。	○	○	○	1
	28. 満洲事変と軍部の対立	・日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのかを考え理解する。	○	○	○	
	29. 日中戦争と戦時体制	・中国との戦争は、なぜ長期化したのかを考え理解する。	○	○	○	
	30. 第二次世界大戦の勃発	・ヨーロッパでの戦いと、アジアの日中の戦争はどのようにしてむすびついたのかを考え理解する。	○	○	○	12
	31. 第二次世界大戦の終結	・戦争は、いつどのようにして「終結」したのかを考え理解する。	○	○	○	
12	32. 国際連合の成立と冷戦	・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきたのかを考え理解する。	○	○	○	
	33. 日本占領と日本国憲法	・民主化政策によって、日本が戦前からかわったことは何だろうかを考え理解する。	○	○	○	
	34. 朝鮮戦争と日本	・連合国の対日占領方針は、朝鮮戦争によってどのようにかわったのかを考え理解する。	○	○	○	
	35. 植民地の独立	・旧植民地は、どのように独立をはたしたのかを考え理解する。	○	○	○	
	36. 米ソ両陣営の動揺 二学期期末考査	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜなのかを考え理解する。	○	○	○	1
1	37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	・冷戦は日本の政治と外交にどのような影響を与えたのかを考え理解する。	○	○	○	
2	38. 石油危機と世界経済	・石油危機以後の世界はどのような変化をみせたのかを考え理解する。	○	○	○	10
	39. 緊張緩和から冷戦の終息へ	・米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかわったのかを考え理解する。	○	○	○	
3	40. 日本の経済大国化	・バブル経済はなぜ崩壊したのかを考え理解する。	○	○	○	1
	41. 地域紛争と対立	・冷戦後の地域紛争の原因は何か	○	○	○	
	42. 国際秩序の変容	を考え理解する。	○	○	○	
	3	学年末考査	・グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたのかを考え理解する。	○	○	○

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 1 年		歴史総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	歴史総合	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	詳述歴史総合		出版社 実教出版		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十訂版] (帝国書院)		要点整理ゼミナール歴史総合 (浜島書店)		

1 学習の到達目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象を学ぶことを通して、次のような知識、技能、能力や態度を養う。

- ① 世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明する力、それらを基に議論する力を磨く。
- ③ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の知識を身に付けている。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明する力、それらを基に議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。
評価の方法	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト ワークシート	学習活動への姿勢 学習課題 ワークシート ノート

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a(知識・技能)、b(思考・判断・表現)、c(主体的に学習に取り組む態度)

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	

4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について理解する。			○	1
	[序章] 歴史の扉	・高校の歴史学習の動機づけと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける。	○	○	○	2
	[第4章] 帝国主義の時代	・帝国主義と同時期の欧米社会，列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争，アジア諸民族の独立運動・立憲革命に触れ，帝国主義政策の背景や特徴とその影響，列強間の関係の変容について理解する。	○	○	○	10
5						
6						
	【一学期中間考査】					【1】
	[第5章] 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化，第一次世界大戦の展開，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立に触れ，第一次世界大戦の背景と特徴，戦後の国際秩序や社会の変容，大衆社会の成立について理解する。	○	○	○	11
7						
	【一学期期末考査】					【1】
8						
9	[第6章] 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌，ファシズムの伸長，日本の対外政策，第二次世界大戦の展開，国際連合の成立と国際経済体制の形成，冷戦の始まりとアジア諸国の動向に触れ，経済危機の背景と影響，国際協調体制の動揺とその要因，第二次世界大戦の特徴，戦後の日本社会と国際秩序の特徴，冷戦体制の成立について理解する。	○	○	○	10
10						
	【二学期中間考査】					【1】
	[第7章] 冷戦と脱植民地化	・冷戦期の地域紛争，対立の推移，第三世界の動向に触れ，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の地域連携，欧米やソヴィエト連邦の政策転換とその要因など国際政治の変容について理解する。	○	○	○	9
11						
	[第8章] 多極化する世界	・石油危機の特徴とその影響，冷戦末期の推移と終結，ヨーロッパとアジアの経済協力について触れ，先進工業国の経済の変容，冷戦の変容と終結の背景，経済的な地域協力の進展について理解する。	○	○	○	7
12						
	【二学期期末考査】					【1】
1						
	[第9章] グローバル化と現代社会	・冷戦の終結と民主化，地域統合の拡大と地域紛争の拡散，世界のグローバル化について触れ，冷戦終結後の国際政治の変容と課題，経済の自由化や技術革新の影響，資源・エネルギー問題と世界経済の関係について理解する。	○	○	○	5
2						
	現代的な諸課題の形成と展望	・現代的な諸課題について，歴史的経緯，背景や原因，結果や影響などに着目するとともに，地域間の比較や関連付けを通して，持続可能な社会の実現に資するための知識・技能・力・態度を養う。	○	○	○	3
3						
	【学年末考査】					【1】

公民科 1年 公共 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	公共	対象	スポーツ・進学 コース	単位数	2 単位
教科書	公共 出版社 東京書籍				
副教材	ライブ 2022 公共, 現代社会を考える (帝国書院) 公共ワークノート【デジタル】 (東京書籍)				

1 学習の到達目標

<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現することができる。	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

3 学習計画

※評価の観点：a (知識・技能)、b (思考・判断・表現)、c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第1部「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる	・年間進度を確認し、体験学習を通じて学習方法を学ぶ。 ・青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり返り、青年期の特徴や発達課題について理解し、自己		○	○	1
			○	○	○	1.5

5	私たち—社会のなかの自己	形成について考察する。	○	○	○	1.5
	(1) 現代社会に生きる青年	・現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義などについて理解し、キャリア開発や社会参画の意義について考察する。	○	○	○	
	1 青年期と自己形成の課題					
	2 自己形成と社会への参画					
	(2) 社会的な関係のなかで生きる人間	・規則と自由に関する課題について、カントの義務論やJ.S. ミルの自由論を手がかりに、実際的な場面を想定しながら、理解を深める。	○	○	○	
6	1 個人として尊重される人間	・日常的に用いられる「公共」の意味について考えながら、アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の捉えた社会的存在としての人間のあり方及び公共空間について理解する。	○	○	○	1
	2 社会的な存在としての人間	・日常使われている言葉の意味や用法に伝統や文化がかかわっていることを理解し、それがどのような課題につながっているか考察する。	○	○	○	1
	3 伝統・文化のなかの人間		○	○	○	1
	(一学期中間考査)		○	○	○	1
	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理	・行為の判断や選択の場面を想定し、目的論と義務論の区別について理解する。また、功利主義の快樂や幸福の考え方が、社会のあり方と関連していることを、事例に理解する。	○	○	○	1
	1 功利主義と幸福の原理	・人間にとっての善さや幸福を、人が徳を備えることに求める考え方を理解する。	○	○	○	1
	2 義務論と公正の原理	・義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について、社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方やセンの潜在能力という考え方を理解する。	○	○	○	1
	<活用>					
	生命倫理について考える	・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察する。	○	○	○	2
	<活用>					
環境倫理について考える	・生命倫理、環境倫理について、功利主義と義務論の考え方を手がかりに、考察し議論する。	○	○	○	2	
7	第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	・社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解する。	○	○	○	1
	1 公共的な空間における協働とは	・社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義について理解する。	○	○	○	1
	2 民主主義とは	・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解し、立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察する。	○	○	○	1
	3 立憲主義とは					
	4 人権保障の意義と展開	・公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。また、日本国憲法の基本原理と基本的人権について理解する。	○	○	○	3
8	(一学期期末考査)		○	○	○	1
	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち	・民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解し、国民投票のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○	2
	第1章 民主政治と私たち					
	<テーマ1>					
	民主政治と政治参加	・政治の働き、民主主義について理解し、現在の民主主義の課題について考察する。	○	○	○	1
1 私たちの民主政治						
2 地方自治のしくみと役割	・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加	○	○	○	2	

9	3 国会のしくみと役割	<p>の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、理解し、実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解し、今日の行政の課題について考察する。 政治参加の方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について理解し、有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について考察する。 政党の役割、政党政治、利益集団、政治資金にかかわる課題について理解する。 民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解し、正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察する。 法と道徳や慣習などの規範の特性について、規制する対象や範囲、効力などの点から比較し理解する。 公共的な空間において、道徳やマナーに委ねる場合と、法的ルールによっている場合があることについて、事例をあげて考察する。 道徳を含む社会規範における法の特徴、法の役割、法の区分、特色について理解する。 法案の作成と提出、民事裁判と刑事裁判、裁判における法の適用、法の解釈の意味などについて理解し、民事裁判、刑事裁判の特色、法の適用と解釈、市民にも求められるリーガルマインドの意義について考察する。 私法の役割と意義に関連して、インターネットによる契約の特性や転売について理解し多面的・多角的に考察し議論する。 私法の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解し、公共の福祉とのかかわり、過失責任の原則の意義について考察する。 契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解し、消費者の権利とその尊重、自立支援について考察する。 裁判員と死刑制度、死刑制度の合憲性と世論、国際社会における死刑制度について理解し、多面的・多角的に考察し議論する。 司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解し、その意義について考察する。 刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度について理解し、刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について考察する。 	○	○	○	1	
	4 内閣のしくみと役割		○	○	○	2	
	5 政治参加と選挙		○	○	○	2	
	6 政党と利益集団		○	○	○	1	
	7 メディアと世論		○	○	○	1	
	10		(二学期中間考査)	○	○	○	1
	第2章 法の働きと私たち		○	○	○	1	
	<テーマ1>		○	○	○	1	
	法や規範の意義と役割		○	○	○	1	
	1 法と社会規範の役割		○	○	○	1	
2 法の成立と適用	○	○	○	1			
11	<テーマ2>	○	○	○	1		
市民生活と私法	○	○	○	1			
1 市民生活と法	○	○	○	1			
2 多様な契約	○	○	○	1			
3 消費者の権利と責任	○	○	○	1			
12	<テーマ3>	○	○	○	2		
国民の司法参加	○	○	○	1			
1 司法のしくみと役割	○	○	○	1			
2 刑事司法と司法参加の意義	○	○	○	1			
(二学期期末考査)	○	○	○	1			

1	第5章 国際社会のなかで 生きる私たち <テーマ1> 国際社会のルールとしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・有限な資源を維持管理していくか、漁業をめぐる国際社会の課題を例に多面的・多角的に考察し、国家間の利害が錯綜する課題解決のためのルールや国際協力について理解する。 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて理解し、国際社会におけるさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に考察する。 ・国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障やさまざまな役割と課題について理解し、国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。 	○	○	○	1
	1 国際社会の成り立ち		○	○	○	1
	2 国際連合の役割		○	○	○	2
	<テーマ2> 国際社会と平和主義		○	○	○	2
	1 日本の平和主義と冷戦		○	○	○	1
	2 冷戦後の世界と日本		○	○	○	1
	<テーマ3> 国際平和への課題		○	○	○	1
	1 現代の紛争とその影響		○	○	○	1
	2 平和な国際社会に向けて		○	○	○	2
	3		○	○	○	1
	(学年末考査)		○	○	○	1

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民科 1年		公共		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	公共	対象	特進	コース	単位数
教科書	高等学校 公共 私たちがひらく未来・社会			出版社	2 単位
副教材	2022 政治・経済資料 (とうほう), 公共ワークノート (清水書院)				

1 学習の到達目標

- ① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
評価の方法	それぞれの観点ごとに、何で評価するかを記入する。		
	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学期ごとに観点別評価を行い、最終的に学年末に評定にまとめます。
評価の内容 知識・技能 100%, 思考・判断・表現 100%, 主体的に学習に取り組む態度 100%

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能）、b（思考・判断・表現）、c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	学習確認ガイダンス 学習方法習得体験学習 第1編 公共の扉をひらく 第1章 1 私たちの人生と社会 2 青年期の心理と課題 file1 職業の選択とライフコース	・青年期の特徴と発達課題、様々な人間の心の在り方について理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	○	○	○	1
	3 哲学の始源と発展 ーギリシャ思想 4 一神教の教え	・ギリシャ哲学や宗教の学習を通して、「幸福」「愛」「徳」などの観点から、人間としての在り方生き方について思索させるとともに、人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。	○	○	○	2
5	5 東洋の宗教と思想（1）ー 仏教 6 東洋の宗教と思想 （2）ー儒教 7 日本の風土と神仏へ 信仰 8 江戸時代の学問と近代化への 歩み file2 伝統芸能と日本的な美意識	・日本の思想が我が国の風土や伝統、外来思想の影響を受けながら形成されてきたことを理解し、国際社会に生きる日本人としての自己の在り方生き方について多面的・多角的に理解する。	○	○	○	4
6	1 私たちと青年期					
7	2 私たちと社会 3 人間の社会と文化 <u>一学期中間考査</u>					
8	第2章 公共的な空間に おける人間 1 義務論と功利主義 file3 思考実験 2 生命倫理 file4 代理出産を認めるべきか	・カントの思考と功利主義の考え方の理解をもとに、社会の構成員としての自己を意識するとともに、「幸福」「正義」「公正」などの観点から、他者との関わりや社会のあり方について考察する。	○	○	○	2
	3 環境倫理 file5 環境を守るために何がで きる	・生命科学や医療技術の進展にともなって生じた倫理的課題から、生きることの意義について思索するとともに、「幸福」「公正」などの観点から、社会のあり方について考察する。	○	○	○	2
9	第3章 公共的な空間における基 本的原理 1 近代的人間像の （1）ー近代の始まり 2 近代的人間像の （2）ー科学的な思考 3 国家社会と人間 （1）ー社会契約説 4 国家社会と人間	・深刻化する環境問題とその解決に向けた取り組みを理解し、地球規模の課題を身近な地域の問題として捉え、社会の構成員として生きる自己のあり方について考察する。	○	○	○	2
		・経験論や合理論などの科学的な思考、社会契約説、ヘーゲルやマルクス、実存主義などの近代思想を通して、自然と人間との関わりを理解し、社会の在り方と人間としての	○	○	○	2

	(2) ヘーゲルとマルクス 5 国家社会と人間 (3) 実存主義 6 公共性の復権と他者についての思考 7 公正な社会と個人 ー現代の政治思想 file6 対話の意義 <u>一学期期末考査</u>	在り方生き方について多面的・多角的に考察する。 ・ハーバーマスやアレント、ロールズらの政治理論の理解をもとに、「公共的な空間」として形成された現代社会の諸課題、「社会的存在」である人間の在り方生き方について考察する。	○	○	○	2
10	第2編 基本的人権の尊重 第1章 民主政治の原理 1 近代国家と立憲主義 file7 法の意義と役割 2 日本国憲法の成立 file8 憲法改正について考えよう 第2章 人権の尊重と日本国憲法 1 日本国憲法の三原理と人権保障 2 平和主義と国際社会 3 平等権 4 自由権 file9 多様化する社会の人権 ① file10 多様化する社会の人権 ② 5 社会権 6 参政権の保障と国務請求権	個人の尊重と基本的人権の保障、法の支配や立憲主義という近代民主主義国家の基本的な原理を理解し、国民の自由や権利が保障されていることの意義を考察する。 ・日本国憲法の成立について、その歴史的背景と経緯について理解を深める。	○	○	○	3
	1 日本国憲法の三つの基本原理を踏まえ、平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解する。	○	○	○	2	
	・日本国憲法が保障している基本的人権の内容を通して、政治制度との関わりについて考察し、個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について理解を深める。	○	○	○	4	
	・現代社会において、基本的人権を拡充するものとして主張されている新しい人権の内容を理解するとともに、国際社会における人権に関する諸条約の意義を考察する。	○	○	○	2	
11	7 新しい人権 file11 多様化する家族について考えよう 8 グローバル化と国際人権 <u>二学期中間考査</u>	・民主社会の成立過程、現代社会の民主政治の仕組みと世界の政治制度について理解する。	○	○	○	3
	・民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解し、主権者（有権者）として社会に関わる意識を高める。	○	○	○	2	
	第3編 現代の民主政治と社会参画 第1章 民主政治の成立と課題 1 自由民主主義の成立と危機 2 現代の民主主義と課題 file12 世界の政治制度 3 世論の形成と民主社会 file13 情報モラルについて 4 政治参加と主権者（有権者） 5 選挙と政党 file14 選挙に行こう！		○	○	○	5

	<p>第2章 日本の政治機構</p> <p>1 国会の役割としくみ</p> <p>2 内閣と行政機関</p> <p>3 裁判所の役割としくみ</p> <p>12 4 市民生活と司法参加 file15 刑罰・更正と死刑制度 二学期期末考査</p> <p>5 地方自治と住民の生活 file16 外国人住民の多い街</p>	<p>・国民主権を中心とした立法、行政、司法の仕組みと課題を理解し、制度や機構の背景にある民主政治の考え方について多面的・多角的に考察する。</p> <p>・司法制度の仕組みと課題を理解し、よりよい司法の実現のために、国民が司法に参加する意義を考察する。</p> <p>・地方自治の仕組みを理解し、地方自治が民主政治の基盤となっていること、地域の課題について考察する。</p>	○	○	○	2
	<p>1 第3章 国際政治のしくみと役割</p> <p>1 国際政治の成り立ち</p> <p>2 国際連合の設立とその役割 file17 国際連合の主要機関と課題</p> <p>3 冷戦とその終焉</p> <p>2 4 軍縮と安全保障</p> <p>5 リージョナリズム</p> <p>6 グローバル化と国家</p>	<p>・国際社会の変遷、人権、国家主権、国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解し、国際社会が抱える課題を考察する。</p> <p>・冷戦後の国際社会の変化、冷戦後の軍縮や核兵器廃絶などに関する国際的な取り組みについて理解し、グローバル化が進展する国際社会の在り方や課題を多角的・多面的に考察する。</p>	○	○	○	3
	<p>“1 現代の紛争 file18 パレスチナ問題について考えよう</p> <p>2 多文化・多民族社会に向けて</p> <p>3 移民と難民 file19 難民問題</p> <p>4 日本の戦後外交と課題 file20 原爆の記憶とその継承 学年末考査”</p>	<p>・現代の国際紛争の諸要因について理解し、その対立を解消するために、多文化共生の観点から調整し協調することが国際政治に必要とされることを理解する。</p> <p>・平和主義と国際協調の立場から、日本の安全保障や国際貢献の在り方について多面的・多角的に考察する。”</p>	○	○	○	3
			○	○	○	2

地理歴史 科 2 年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史B	対象	進学文系	コース	単位数 3 単位
教科書	詳説世界史B [改訂版]		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [十八訂版] (帝国書院) ゼミナール世界史 (浜島書店) 詳説世界史10分間テスト [改訂版] (山川出版社) 世界史B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査80% 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 20%

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習 [第3章]	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。 ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。	1 1
5	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・秦の成立と統一事業について理解する ・前漢・後漢時代の政治と文化を理解する	10

	【一学期中間考査】		
6	[第4章] イスラーム世界の形成と 発展	・日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程に触れ、内陸アジアの遊牧民の社会、漢王朝滅亡後の中国の分裂と北方諸民族の活動、隋・唐両王朝の支配下に成立した東アジア文化圏の特色について理解する。	1 3
7			
	【一学期期末考査】		
9	[第5章] ヨーロッパ世界の形成と 発展	・イスラーム世界の形成と拡大の過程に触れ、イスラーム成立の背景とその特質、アラブ人を中心とする「イスラーム帝国」の発展、トルコ・アフリカ・南アジア・東南アジアのイスラーム化の展開、およびイスラーム文明の特質について理解する。	1 3
10	【二学期中間考査】 [第6章] 内陸アジア世界・東アジア 世界の展開	・キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程に触れ、古典古代文化・キリスト教・ゲルマン人の融合した西ヨーロッパ中世世界の特質、ビザンツ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界の発展、商業の発展と十字軍の影響による西ヨーロッパ社会の変容、および中世文化の特色について理解する。	1 3
11			
12	[第7章] アジア諸地域の繁栄	・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりに触れ、中央アジアの諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響について理解する。	1 0
	【二学期期末考査】		
1	[第8章] 近世ヨーロッパ世界の形成	・14世紀から18世紀までのアジア諸地域の動向に触れ、明・清王朝の特色と東アジア世界への影響、およびイスラームを受容したトルコ・イラン・インド・東南アジア各地域の展開について理解する。	1 0
2	[第9章] 近世ヨーロッパ世界の展開	・15世紀から17世紀までのヨーロッパ世界の動向とアメリカ・アフリカとの関係に触れ、ルネサンスと宗教改革の特質、「大航海時代」の展開とその影響、およびヨーロッパ各地における主権国家体制形成の過程について理解する。	1 0
2	【学年末考査】	・17世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向とアメリカ・アフリカとの関係に触れ、「絶対王政」や啓蒙専制君主の下でのヨーロッパ各国の動向、各国の海外進出の特質、および17～18世紀の社会と文化の特色について理解する。	

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 2年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)				
科目名	世界史B	対象	特進文系 コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B 出版社 山川出版社			
副教材	① 最新世界史図説タペストリー (帝国書院) , ②世界史B用語集 (山川出版社) , ③ゼミナール世界史 (浜島書店) , ④短期攻略大学入試共通テスト世界史B (駿台文庫)			

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を養う。
- ② 日本を含む諸地域と、世界の歴史を関連付けながら理解する。
- ③ 世界の歴史を学習する中で、客観的で公正な歴史観を養い、広い視野で歴史を考察する力を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

- ① の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。
- 評価の内容 定期考査80% , 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 20%

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・学習のねらい・世界史の授業内容・評価方法について説明を受け、理解する。	1 1
5	第2章 東アジア文化圏の形成 ・隋・唐の成立 ・五代の分裂時代	・問題集を使用し、共通テスト対策の学習方法を体得する。 ・隋・唐の統一王朝の政治と文化を理解する。 ・隋の成立とその制度、唐の成立とその制度が周辺地域に与えた影響を理解しながら、唐の文化の特徴を理解する。	5
	第4章 イスラーム世界の形成と発展 ・イスラーム世界の形成	・イスラーム成立の背景とその特質を理解する。 ・アラブ人によるイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ、	4

6	【一学期中間考査】 ・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・イスラーム文明の発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 ・西ヨーロッパ世界の成	のイスラーム化など、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。 ・イスラーム文明の特質とその影響、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。 ・商業活動などを通じて、イスラーム世界が世界各地に広がっていく様子を理解する。 ・イスラーム教を核とする普遍的文明の拡大とその特徴を理解する。	3
	・地中海世界が解体した後、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が東西に形成された過程と、それぞれの世界に特徴的な性格を理解する。 ・ビザンツ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界が、独自の文化や社会制度をはぐくんだことを理解する。	8	
7	【一学期期末考査】 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化	・十字軍の失敗がもたらした影響と、その後の封建社会の衰退を考察する。 ・キリスト教を中心とした、西ヨーロッパの中世文化を理解する。	3
	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界 ・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立	・キリスト教を中心とした、西ヨーロッパの中世文化を理解する。	10
9	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界 ・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立	・トルコ系民族が中央アジアに進出していく過程と、唐の滅亡後の中国の変化を理解する。 ・契丹、金、西夏の建国と（北）宋の弱体化を理解し、宋全体の政治社会を考察する。 ・ユーラシア全土に及ぶ大帝国を建国した、モンゴル民族の台頭と衰退の過程を理解する。	2
	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界 ・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立	・トルコ系民族が中央アジアに進出していく過程と、唐の滅亡後の中国の変化を理解する。 ・契丹、金、西夏の建国と（北）宋の弱体化を理解し、宋全体の政治社会を考察する。 ・ユーラシア全土に及ぶ大帝国を建国した、モンゴル民族の台頭と衰退の過程を理解する。	1
10	【二学期中間考査】 ・モンゴル帝国 第7章 アジア諸地域の繁栄 ・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸国 ・トルコ・イラン世界の展開 ・ムガル帝国	・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。 ・明・清帝国と朝鮮や日本の関係、東南アジア世界の動向を理解する。 ・清朝統治の全盛期における東アジアとの関係を理解する。 ・トルコ・イラン、及びインドに成立したムガル帝国の動向を理解する。 ・ムガル帝国の皇帝権や官僚制、統治の特質について理解する。	5
	第7章 アジア諸地域の繁栄 ・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸国 ・トルコ・イラン世界の展開 ・ムガル帝国	・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。 ・明・清帝国と朝鮮や日本の関係、東南アジア世界の動向を理解する。 ・清朝統治の全盛期における東アジアとの関係を理解する。 ・トルコ・イラン、及びインドに成立したムガル帝国の動向を理解する。 ・ムガル帝国の皇帝権や官僚制、統治の特質について理解する。	4
11	【二学期期末考査】 第8章 近代ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・主権国家体制の形成	・16世紀以降のヨーロッパ世界の拡大と、変革の過程を理解する。 (大航海、ルネサンス、宗教改革) ・主権国家体制が確立されるヨーロッパ諸国間の動向を理解する。	6
	第8章 近代ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・主権国家体制の形成	・16世紀以降のヨーロッパ世界の拡大と、変革の過程を理解する。 (大航海、ルネサンス、宗教改革) ・主権国家体制が確立されるヨーロッパ諸国間の動向を理解する。	3
12	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出	・市民革命を経てイギリスに立憲王政が確立する過程と、フランスなどの諸国が絶対王政を確立する過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア、新大陸進出と奴隷貿易の現状を理解する。	7
	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18世紀ヨーロッパ文化と社会	・市民革命を経てイギリスに立憲王政が確立する過程と、フランスなどの諸国が絶対王政を確立する過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア、新大陸進出と奴隷貿易の現状を理解する。	4
1	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・産業革命 ・アメリカ独立革命	・科学革命と近代的世界観の成長と啓蒙思想の広がりを理解する。 ・産業革命・アメリカ独立革命などの市民革命を通じて欧米地域の外部に対する影響力が強まったことを理解し国民国家の理念が拡大したことを理解する。	3
	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・産業革命 ・アメリカ独立革命	・科学革命と近代的世界観の成長と啓蒙思想の広がりを理解する。 ・産業革命・アメリカ独立革命などの市民革命を通じて欧米地域の外部に対する影響力が強まったことを理解し国民国家の理念が拡大したことを理解する。	3
2	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・産業革命 ・アメリカ独立革命	・科学革命と近代的世界観の成長と啓蒙思想の広がりを理解する。 ・産業革命・アメリカ独立革命などの市民革命を通じて欧米地域の外部に対する影響力が強まったことを理解し国民国家の理念が拡大したことを理解する。	2
3	【学年末考査】	・科学革命と近代的世界観の成長と啓蒙思想の広がりを理解する。 ・産業革命・アメリカ独立革命などの市民革命を通じて欧米地域の外部に対する影響力が強まったことを理解し国民国家の理念が拡大したことを理解する。	3

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		日本史A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史A	対象	進学文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A	人・くらし・未来	出版社		第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 近代化を目指した明治政府の政治を理解する。
- ② 日清戦争を契機に大陸支配を目指した日本外交を理解する。
- ③ 日露戦争と第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ④ 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 3回の定期考査80% 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 20%

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明を受け、理解する。	1 1
5	明治初期の外交政策	・明治政府 (日本) と朝鮮王国、琉球との関係について触れ、この関係性がその後の外交の基礎になったことを理解する。	5
	日本の朝鮮政策と日清戦争	・ロシアとの国境策定を通じて、千島全島が日本領になったことを理解する。 ・日清戦争の背景と経過について触れ、このできごとが日本の大陸	2

6	日英同盟と日露戦争	進出の契機となったことを理解する。	4
7	【一学期期末考査】	・ロシアの南下政策と日本の大陸進出が対立し戦争に至る過程を理解する。	
8	韓国併合と日本の満州進出	・日本による朝鮮半島支配と中国東北地方への進出について触れ、日本の動向が欧米列強に警戒感を与えたことを理解する。	3
9	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。	3
10	ロシア革命	・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	3
11	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
12	【二学期期末考査】		
1	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	4
2	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦中の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、および関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	4
3	【三学期期末考査】		

地理歴史 科 2 年		日本史A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史A	対象	特進文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A	人・くらし・未来	出版社		第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 近代化を目指した明治政府の政治を理解する。
- ② 日清戦争を契機に大陸支配を目指した日本外交を理解する。
- ③ 日露戦争と第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ④ 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

① の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 3回の定期考査80% 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 20%

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」についての説明を理解する。	1 1
5	明治初期の外交政策	・明治政府 (日本) と朝鮮王国、琉球との関係について触れ、この関係性がその後の外交の基礎になったことを理解する。	5
	日本の朝鮮政策と日清戦争	・ロシアとの国境策定を通じて、千島全島が日本領になったことを理解する。 ・日清戦争の背景と経過について触れ、このできごとが日本の大陸	2

6	日英同盟と日露戦争	進出の契機となったことを理解する。	4
7	【一学期期末考査】	・ロシアの南下政策と日本の大陸進出が対立し戦争に至る過程を理解する。	
8	韓国併合と日本の満州進出	・日本による朝鮮半島支配と中国東北地方への進出について触れ、日本の動向が欧米列強に警戒感を与えたことを理解する。	3
9	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。	3
10	ロシア革命	・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	3
11	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
12	【二学期期末考査】		
1	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	4
2	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦中の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、および関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	4
3	【三学期期末考査】		

地理歴史 科 2 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	スポーツ コース	単位数	4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社)		『詳説日本史図録』 (山川出版)		
	『書き込み教科書詳説日本史改訂版』 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

①成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4月	ガイダンス (体験学習等) 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等の説明について理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を認識する。 ・旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 ・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 ・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	13
5月	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 1 学期中間考査 3 平城京の時代 4 天平文化	・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 ・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	14

6月	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の中央進出の背景を学ぶ。 ・藤原氏による独裁で政局の安定を迎えたことや遣唐使の廃止により、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。 	17
7月	1 学期期末考査 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・後三条天皇の政治が院政へ発展していくことや平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 	2
8月	学力テスト		1
9月	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 ・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 	16
10月	2 幕府の衰退と庶民の台頭 2 学期中間考査 3 室町文化 4 戦国大名の登場	<ul style="list-style-type: none"> ・6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。 ・東アジアとの貿易、室町時代の農業商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 ・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。 	16
11月	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。 	16
12月	3 幕藩体制の成立 2 学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。この時代幕藩体制が確立したことや鎖国のメリット・デメリットを理解する。 	5
1月	学力テスト 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 	11
2月	2 経済の発達 3 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 ・貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 	14
3月	3 学期期末考査		2
			127

地理歴史 科 2 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	進学文系 コース	単位数	4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社)		『詳説日本史図録』 (山川出版)		
	『ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。 ・旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 ・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 ・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	13
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 1 学期中間考査 3 平城京の時代 4 天平文化	・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 ・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	14

6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の中央進出の背景を学ぶ。 ・藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。 	1 7
7	1 学期期末考査 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 	2
8	学力テスト		1
9	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 ・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 	1 6
1 0	2 幕府の衰退と庶民の台頭 2 学期中間考査 3 室町文化 4 戦国大名の登場	<ul style="list-style-type: none"> ・6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 ・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について理解する。 	1 6
1 1	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1.織豊政権 2.桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。 	1 6
1 2	3 幕藩体制の成立 2 学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 ・この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 	5
1	学力テスト 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	<ul style="list-style-type: none"> 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 	1 1
2	2 経済の発達 3 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 	1 4
3	3 学期期末考査		2
			1 2 7

地理歴史 科 2 年 日本史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数 5 単位
教科書	『詳説日本史B 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『詳説日本史図録』 (山川出版) 『ウイニングコンパス日本史の整理と演習』 (とうほう)				

1 学習の到達目標

- ② 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。 ・旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 ・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 ・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。 	15
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 1 学期中間考査 4 天平文化	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 ・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。 	17
6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の中央進出の背景を学ぶ。 ・藤原氏による独裁で安定を迎えたことや遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。 	20

	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 	
7	1 学期期末考査 3 武士の社会		3
8	学力テスト		1
9	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	<ul style="list-style-type: none"> ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 ・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 ・6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が惣村の形成や一揆を引き起こしたことや、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 	19
10	4 戦国大名の登場 2 学期中間考査 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。 ・幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。 	19
11	3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 ・この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 ・4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 ・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 	19
12	2 経済の発達 2 学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 	6
1	学力テスト 3 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 	14
2	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> ・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 ・工場制手工業の発達など軽工業における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生を理解する。 ・文学は当時の世相をあらわす鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものをうみだした。儒学や藩校・私塾・寺子屋は教育の発達を促し、多くの人材を輩出したことを理解する。 	17
3	3 学期期末考査		2
			152

地理歴史 科 2 年		地理 B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	スポーツ コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院) , 新詳地理B ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の進め方 予習復習について ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、地理の学習方法を体得する。 	1 1
5	II-1-1 ○世界の地形	<ul style="list-style-type: none"> ・営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する。 	9
	II-1-2 ○世界の気候	<ul style="list-style-type: none"> ・気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。 	9
	<1学期中間テスト>		

6	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	・日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。 ・成因や特徴、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	6
	II-1-4 ○環境問題		5
	II-2-2 ○世界の農林水産業	・農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課題を考察する。 ・世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。	11
7	II-2-3 ○世界の食糧問題		4
8	<1 学期期末テスト>		
9	II-2-4 ○世界のエネルギー・鉱産資源	・エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	7
	II-2-5 ○資源・エネルギー問題	・資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。 ・工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	7
	II-2-6 ○世界の工業		7
10	II-2-7 ○第3次産業	・現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	4
	II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信	・交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	5
	II-3-1 ○世界の人口	・世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	7
	<2 学期中間テスト>		
11	II-3-2 ○人口問題	・世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	5
	II-3-3 ○村落と都市	・村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 ・世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。	6
	II-3-4 ○都市・居住問題		5
12	II-4-1 ○生活文化	・衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。	3
	III-2-11 ○オセアニア地誌	・オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
	<2 学期末テスト>		
1	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	・アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
2	III-2-2 ○東アジア地誌	・東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
3	III-2-3 ○東南アジア地誌	・東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
	<学年末考査>		

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		地理 B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	進学文系 コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図	出版社		帝国書院	
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院), 新詳地理B ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への姿勢 定期テスト 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動における発言内容や態度 定期テスト 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動における発言内容や態度 定期テスト ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動における発言内容や態度 定期テスト 小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	II-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する	9
5	II-1-2 ○世界の気候	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	10
	<1学期中間テスト>		
	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を	6

6	II-1-4 ○環境問題	理解するとともに、防災のあり方を考察する。 ○成因や特徴、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	5
7	II-2-2 ○世界の農林水産業 II-2-3 ○世界の食糧問題 <1 学期期末テスト>	○農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課題を考察する。 ○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。	11 4
8	II-2-4 ○世界のエネルギー・鉱産資源	○エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	7
9	II-2-5 ○資源・エネルギー問題	○資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。	7
10	II-2-6 ○世界の工業 II-2-7 ○第3次産業 II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信	○工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。 ○現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。 ○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	7 4 5
11	II-3-1 ○世界の人口 <2 学期中間テスト> II-3-2 ○人口問題	○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	7
12	II-3-3 ○村落と都市 II-3-4 ○都市・居住問題 II-4-1 ○生活文化 III-2-11 ○オセアニア地誌 <2 学期末テスト>	○世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 ○村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 ○世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。 ○衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。 ○オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5 6 5 3 6
1	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
2	III-2-2 ○東アジア地誌	○東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
3	III-2-3 ○東南アジア地誌 <学年末テスト>	○東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6

地理歴史科 2年		地理B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	特進理系	コース	単位数 3単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新編地理資料 2022 (とうほう), '22 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2022 (二宮書店) 地理B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方と予習復習についての説明を理解する。	1
	II-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する	7
5	II-1-2 ○世界の気候	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	8
	<1学期中間テスト>		

6	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	3
	II-1-4 ○環境問題	○成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	3
	II-2-2 ○世界の農林水産業	○農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課題を考察する。	7
7	II-2-3 ○世界の食糧問題	○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。	3
8	<1 学期期末テスト>		
9	II-2-4 ○世界のエネルギー・鉱産資源	○エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	5
	II-2-5 ○資源・エネルギー問題	○資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。	5
	II-2-6 ○世界の工業	○工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	5
10	II-2-7 ○第3次産業	○現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	3
	II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	4
	II-3-1 ○世界の人口	○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	3
	<2 学期中間テスト>		
11	II-3-2 ○人口問題	○世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	3
	II-3-3 ○村落と都市	○村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。	5
	II-3-4 ○都市・居住問題	○世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。	4
	II-4-1 ○生活文化	○衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。	3
12	III-2-11 ○オセアニア地誌	○オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5
	<2 学期末テスト>		
1	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5
2	III-2-2 ○東アジア地誌	○東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	5
	III-2-3 ○東南アジア地誌	○東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	4
	III-2-4 ○南アジア地誌	○南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	4
3	<学年末テスト>		

公民科 2年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版		出版社 清水書院		
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・最新図説倫理				

1 学習の到達目標

- | |
|---|
| <p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p> |
|---|

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題となげ理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出、課題提出等

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
	科目・年間進度及び評価について (学習方法習得体験学習)	・初めて「倫理」を学ぶにあたっての説明と体験学習をする。	1
	第1編現代に生きる自己の課題 第1章人間とは何か	・人間とは何か。青年期の意義や心理について考える。	4
5	第2章青年期の課題と自己形成	・自己実現に向けた青年期の課題について考える。	
	第2編 人間としての自覚と生き方	・単なる知識の羅列に終わることなく、「生き方」の問題を考える。	5
	第1章 人生における哲学	・神話・自然哲学・ソフィストについて理解する。	
	1 神話から哲学へ	・ソクラテス・プラトン・アリストテレスについて理解する。	
	2 ギリシャの思想	・ゼノン・エピクロスについて理解する。	
6	1学期中間試験 (P. 6～35)		
	3ヘレニズム時代の思想		
	第2章 人生における宗教		
	第1節 キリスト教	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基礎的内容を学習し西洋人の宗教観を理解する。細部には立ち入らず、それぞれの宗教を生み出した背景や西洋人の考え方などを理解し正しい宗教観を身に付ける。	4
	1 ユダヤ教		
	2 キリスト教		
	3 世界宗教への展開		
	第2節 イスラーム		1
	第3節 仏教	・仏教の基礎を学習し、東洋人の宗教観を理解する。	5
7	1 バラモン教	仏教の根本的な考え方を理解し西洋の宗教観との相違点についても把握する。	
	2 仏陀の思想		
	3 仏教のその後の展開		
	1学期期末試験 (P. 35～60)		
8	第2編 第3章 人生の知恵	・儒家・道家の中国思想の学習を通して東洋における人間関係のあり方や道德観の考え方を理解する。	5
	1 孔子と儒家の思想		
9	2 儒教の展開		
	3 道家の思想	・プリントを活用し、芸術と人生の価値や方向づけについての関連性を考える。	1
	第4章 人生における芸術		
	第3編 現代社会と倫理		
	第1章 現代の特質と倫理的課題		
	第2章 現代に生きる人間の倫理	・近代についての理解を図り、二つのR(ルネサンス・宗教改革=Reformation)について認識する。	2
	第1節 人間の尊厳		
	1 自己肯定の精神		
	2 宗教観の転換	・二つのR(ルネサンス・宗教改革)を経て、近代合理主義精神が芽生えたことを理解する。	7
10	3 人間の偉大と限界	・宗教戦争を背景に登場してきたモラリストを通して人言の在り方・生き方について考える。	
	ルネサンス		
	宗教改革		
	モラリスト		

	2学期中間考査 (P. 61~89)		
11	<p>第2節 自然や科学技術とのかかわり</p> <p>1 自然への目と科学的なものもの見方</p> <p>近代科学の誕生</p> <p>経験論・合理論</p> <p>第3節 民主社会における人間の在り方</p> <p>社会契約説</p> <p>第4節 自己実現と幸福</p> <p>ドイツ観念論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近代西洋における合理的・科学的精神を理解し、かつ東洋思想との相違についても考える。 近代西洋哲学における経験論・合理論の比較を通して思想内容の違いを理解する。 市民革命による絶対王政の打破と民主主義社会の歩みを、社会契約説を通して理解する。 自律としての自由についてカントの考えや善意志と目的の国について学ぶ。 自由や人格の尊厳の意味について考える。自己実現と自由に関して、ヘーゲルの考えを学ぶ。 絶対精神の目的と自由や弁証法などを学び、人倫と自由の実現を理解する。 カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 	6
12			
	2学期期末考査 (P. 90~109)		
1	<p>功利主義</p> <p>プラグマティズム</p> <p>第5節 個人と社会との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最大多数の最大幸福を説いたベンサムや、不満足なソクラテスの考え方を説いたミルについて学ぶ。社会の進歩改善を目指した思想家の幸福感を考える。 プラグマティズムや民主主義の実現と幸福を説いたデューイについて学ぶ。 	9
2	<p>社会主義</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人間疎外の原因に関して、マルクスの説いた唯物史観を理解する。 空想的社会主義・科学的社会主義・修正マルクス主義について段階的に理解する。 	
3	<p>実存主義</p>	<ul style="list-style-type: none"> キルケゴールの「自己を見つめる」や「実存的交わり」を説いたヤスパースについて学ぶ。 「ニヒリズムを超えて」や「神の死と超人」を説いたニーチェについて学ぶ。 ハイデッガーが説いた「死への存在」の考えを理解する。 内面的な主体性の回復を目指した思想家の思想を考える。 孤独な実存に目覚め、他者との連携を図る重要性を知る。 本来的自己を回復し、疎外を克服する大切さを知る。 自由と責任について、サルトルを学ぶ。 	2
	学年末考査 (P. 110~139)	<p>実践演習 (プリント)</p>	

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民科 2年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版		出版社 清水書院		
副教材	完全 MASTER 大学入試共通テスト倫理問題集・最新図説倫理				

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p>

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関する諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト レポート グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト レポート グループワーク 観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出、課題提出等

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時 間 数
4	科目・年間進度及び評価について (予習復習体験学習)	・初めて「倫理」を学ぶにあたっての説明と体験学習を受ける。	1
	第1編現代に生きる自己の課題		4
	第1章人間とは何か	・人間とは何か。青年期の意義や心理について考える。	
	第2章青年期の課題と自己形成	・自己実現に向けた青年期の課題について考える。	
5	第2編 人間としての自覚と生き方		5
	第1章 人生における哲学		
	1 神話から哲学へ	・単なる知識の羅列に終わることなく、「生き方」の問題を考える。	
	2 ギリシャの思想	・神話・自然哲学・ソフィストについて理解する。	
	1学期中間試験 (P. 6～35)	・ソクラテス・プラトン・アリストテレスについて理解する。	
	3ヘレニズム時代の思想	・ゼノン・エピクロスについて理解する。	
6	第2章 人生における宗教		4
	第1節 キリスト教		
	1 ユダヤ教	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基礎的内容を学習し西洋人の宗教観を理解する。細部には立ち入らず、それぞれの宗教を生み出した背景や西洋人の考え方などを理解し正しい宗教観を身に付ける。	1
	2 キリスト教		5
	3 世界宗教への展開		
	第2節 イスラーム		
	第3節 仏教		
	1 バラモン教	・仏教の基礎を学習し、東洋人の宗教観を理解する。仏教の根本的な考え方を理解し西洋の宗教観との相違点についても理解する。	
	2 仏陀の思想		
	3 仏教のその後の展開		
7	1学期期末試験 (P. 35～60)		5
	第2編 第3章 人生の知恵	・儒家・道家の中国思想の学習を通して東洋における人間関係のあり方や道德観の考え方を理解する。	
	1 孔子と儒家の思想		
8	2 儒教の展開		1
	3 道家の思想	・プリントを活用し、芸術と人生の価値や方向づけについての関連性を考える。	
9	第4章 人生における芸術		2
	第3編 現代社会と倫理		
	第1章 現代の特質と倫理的課題	・近代について理解し、二つのR(ルネサンス・宗教改革=Reformation)について考察する。	7
	第2章 現代に生きる人間の倫理		
	第1節 人間の尊厳	・二つのR(ルネサンス・宗教改革)を経て、近代合理主義精神が芽生えたことを理解する。	
	1 自己肯定の精神	・宗教戦争を背景に登場してきたモラリストを通して人言の在り方・生き方について考える。	
	2 宗教観の転換		
	3 人間の偉大と限界		
10	ルネサンス		
	宗教改革		
	モラリスト		
	2学期中間考査 (P. 61～89)		

11	第2節 自然や科学技術とのかかわり 1 自然への目と科学的なものもの見方 近代科学の誕生 経験論・合理論 第3節 民主社会における人間の在り方 社会契約説 第4節 自己実現と幸福 ドイツ観念論	<ul style="list-style-type: none"> 近代西洋における合理的・科学的精神を理解し、かつ東洋思想との相違についても考える。 近代西洋哲学における経験論・合理論の比較を通して思想内容の違いを理解する。 市民革命による絶対王政の打破と民主主義社会の歩みを、社会契約説を通して理解する。 自律としての自由についてカントの考えや善意志と目的の国について学ぶ。 自由や人格の尊厳の意味について考える。 自己実現と自由に関してヘーゲルの考えを学ぶ。 絶対精神の目的と自由や弁証法などを学び、人倫と自由の実現を理解する。 カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 	6
12	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">2学期期末考査 (P. 90~109)</div>		2
1	功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義	<ul style="list-style-type: none"> 最大多数の最大幸福を説いたベンサムや、不満足なソクラテスの考え方を説いたミルについて学ぶ。 社会の進歩改善を目指した思想家の幸福感を考える。プラグマティズムと民主主義の実現と幸福についてデューイの考えを学ぶ。 人間疎外の原因について考え、マルクスの唯物史観を理解する。 空想的社会主義・科学的社会主義・修正マルクス主義について段階的に理解する。 「自己を見つめる」についてキルケゴールの考えを理解する。 実存的交わりを説いたヤスパースや、「ニヒリズムを超えて」の考え方やニーチェの「神の死と超人」について理解する。 ハイデッガーが説いた「死への存在」の考えを理解する。 内面的な主体性の回復を目指した思想家の思想を考える。 孤独な実存に目覚め、他者との連携を図る重要性を知る。 本来的自己を回復し、疎外を克服する大切さを知る。自由と責任やサルトルについて理解する。 	9
2	実存主義		2
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">学年末考査 (P. 110~139)</div>	実践演習 (プリント)	

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 3年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史B	対象	進学文系	コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B [改訂版]		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [十八訂版] (帝国書院)		ゼミナール世界史 (浜島書店)		
	詳説世界史10分間テスト [改訂版] (山川出版社)		世界史B用語集 (山川出版社)		

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
- ② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
- ③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

【評価の内容】 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習 [第8章] ヨーロッパ諸国の抗争と主権 国家体制の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」についての説明を理解する。 ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。 ・15世紀から17世紀までのヨーロッパ世界の動向に触れ、ヨーロッパ各地における主権国家体制形成の過程を理解する。 	1 1 6

5	[第9章] 近世ヨーロッパ世界の展開	・17世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向とアメリカ・アフリカとの関係に触れ、「絶対王政」や啓蒙専制君主の下でのヨーロッパ各国の動向、各国の海外進出の特質、及び17～18世紀の社会と文化の特色について理解する。	13
	【一学期中間考査】		
	[第10章] 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・18世紀から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成の過程に触れ、産業革命の特色、アメリカ独立革命およびフランス革命の背景と展開、影響について理解する。	13
6	[第11章] 欧米における近代国家の発展	・19世紀における欧米世界の歴史の大きな枠組みと展開に触れ、ウィーン体制下の各地における国民統一国家の形成、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争の特色、ラテンアメリカ諸国の独立、及び19世紀の欧米文化について理解する。	12
7	【一学期期末考査】		
8	[第12章] アジア諸地域の動揺	・西アジア（オスマン帝国・アラブ世界）、南アジア（インド）、東アジア（清・朝鮮・日本）などの動向に触れ、ヨーロッパ諸国のアジアへの進出と、それに端を発したアジア諸地域の政治・社会・文化の変容について理解する。	12
9	[第13章] 帝国主義とアジアの民族運動	・ヨーロッパ諸国によるアフリカ・アジア・太平洋・カリブ海地域への進出とイスラーム世界やインド・中国、ラテンアメリカ地域の動向に触れ、帝国主義の背景・展開・国内政治の様子、及びアジア・アフリカでの民族運動について理解する。	15
10	【二学期中間考査】		
	[第14章] 二つの世界大戦	・総力戦としての二つの世界大戦を中心に、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア（中国・インド・イスラーム世界）・アフリカの民族運動に触れ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解する。	15
11	[第15章] 冷戦と第三世界の自立	・米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などに触れ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について理解する。	9
	[第16章] 現代の世界	・市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーを巡る問題などに触れ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について理解する。	8
12	【二学期期末考査】		

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 3年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	世界史B	対象	特進文系	コース	単位数	3 単位
教科書	詳説世界史B〔改訂版〕			出版社	山川出版社	
副教材	最新世界史図説タペストリー〔十八訂版〕 (帝国書院)		ゼミナール世界史 (浜島書店)			
	短期攻略大学入学共通テスト対策世界史B (駿台文庫)		世界史B用語集 (山川出版社)			

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
- ② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
- ③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

【評価の内容】 定期考査8割 平常点 (学習態度・単元テスト・ノート提出・課題提出) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。 ・共通テスト、及び個別学力試験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。 	1 1
	[第10章] 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成の過程に触れ、産業革命の特色、アメリカ 	11

5	<p>【第11章】 欧米における近代国家の発展</p> <p>【一学期中間考査】</p>	<p>独立革命およびフランス革命の背景と展開，影響について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19世紀における欧米世界の歴史の大きな枠組みと展開に触れ，ウィーン体制下の各地における国民統一国家の形成，アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争の特色，ラテンアメリカ諸国の独立，及び19世紀の欧米文化について理解する。 	1 1
6	<p>【第12章】 アジア諸地域の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西アジア（オスマン帝国・アラブ世界），南アジア（インド），東アジア（清・朝鮮・日本）などの動向に触れ，ヨーロッパ諸国のアジアへの進出と，それに端を発したアジア諸地域の政治・社会・文化の変容について理解する。 	1 1
7	<p>【第13章】 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>【一学期期末考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ諸国によるアフリカ・アジア・太平洋・カリブ海地域への進出とイスラーム世界やインド・中国，ラテンアメリカ地域の動向に触れ，帝国主義の背景・展開・国内政治の様子，及びアジア・アフリカでの民族運動について理解する。 	1 1
8 9 10	<p>【第14章】 二つの世界大戦</p> <p>【二学期中間考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総力戦としての二つの世界大戦を中心に，ロシア革命とソヴィエト連邦の成立，大衆社会の出現とファシズム，世界恐慌と資本主義の変容，アジア（中国・インド・イスラーム世界）・アフリカの民族運動に触れ，20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解する。 	1 5
11	<p>【第15章】 冷戦と第三世界の自立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両陣営による冷戦の展開，戦後の復興と経済発展，アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題，平和共存の模索などに触れ，第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について理解する。 	9
11	<p>【第16章】 現代の世界</p> <p>【二学期期末考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済のグローバル化とアジア経済の成長，冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体，地域統合の進展，知識基盤社会への移行，地域紛争の頻発，環境や資源・エネルギーを巡る問題などに触れ，1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について理解する。 	9
12	<p>【共通テスト対策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト試験過去問題集・実践問題集を活用し，共通テストに向けての実力を養う。 	
1	<p>【個別学力試験対策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二次試験受験者を対象に，実力を養う。 	
2			

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 3年 日本史A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史A	対象	進学文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A	人・くらし・未来		出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ② 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。
- ③ 第二次世界大戦と太平洋戦争の背景、経過、結果、及び影響を理解する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

【評価の内容】 定期考査 (2回) 8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習 第一次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」についての説明を理解する。 ・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。 	1 1 3
5	ロシア革命	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。 	2
6	大戦後のパリ講和会議 第一次大戦後の協調外交	<ul style="list-style-type: none"> ・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。 ・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。 	3 2

7	【一学期期末考査】		
8	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦後の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、及び関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	3
9	満州事変と軍部の台頭	・関東軍による中国東北地方への進出の背景と過程について触れ、日本が国際的に孤立したことを理解する。	3
10	三国防共協定と日中戦争	・日本がイタリア、ドイツに接近する過程を理解する。 ・盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し、日中戦争への道が開かれたことを理解する。	3
11	第二次世界大戦と太平洋戦争 戦局の推移 戦時下の国民生活 連合国の動向と日本の敗戦	・第二次世界大戦開戦の背景と経過について理解する。 ・太平洋戦争開戦の背景と経過について理解する。 ・戦争中の国内の様子について理解する。 ・太平洋戦争の終結について、連合国軍による戦後構想の構築の過程を踏まえて理解する。	5
	【二学期期末考査】		

地理歴史 科 3 年		日本史A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史A	対象	特進文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来		出版社	第一学習社	
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ② 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。
- ③ 第二次世界大戦と太平洋戦争の背景、経過、結果、及び影響を理解する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

【評価の内容】 定期考査（2回）8割 平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時 間 数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。	1 1
5	第一次世界大戦と日本 ロシア革命	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。 ・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	3 2
6	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
7	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	2

	【一学期期末考査】		
8	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦後の日本外交が強硬姿勢に変化したこと, 及び関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	3
9	満州事変と軍部の台頭	・関東軍による中国東北地方への進出の背景と過程について触れ, 日本が国際的に孤立したことを理解する。	3
10	三国防共協定と日中戦争	・日本がイタリア, ドイツに接近する過程を理解する。 ・盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し, 日中戦争への道が開かれたことを理解する。	3
11	第二次世界大戦と太平洋戦争 戦局の推移 戦時下の国民生活 連合国の動向と日本の敗戦	・第二次世界大戦開戦の背景と経過について理解する。 ・太平洋戦争開戦の背景と経過について理解する。 ・戦争中の国内の様子について理解する。 ・太平洋戦争の終結について, 連合国軍による戦後構想の構築の過程を踏まえて理解する。	5
	【二学期期末考査】		

※学習状況により, 進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社)		『詳説日本史図録』 (山川出版)		
	『書き込み教科書詳説日本史改訂版』 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付け、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	ガイダンス (体験学習等) 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを受け、理解する。 織豊政権から初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。南蛮貿易・江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代に幕藩体制が確立したことや鎖国のメリット・デメリットを理解する。	1 2
5	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 1学期中間考査 2 経済の発達 3 元禄文化	4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と美正主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。	1 3

6	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	17
	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大いに役立ったことを学習する。	
7	1学期期末考査		3
8	学力テスト		2
9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	・開国問題と将軍継嗣問題が複雑に絡み合い、大名が尊皇派と一橋派に分かれ争ったこと、及び桜田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊皇攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。 五箇条の誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策	16
10	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的な性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦毎時論に傾いていったことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	14
11	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	15
12	6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 西欧の帝国主義型発展の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかに関わっていくことを学ぶ。 財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも着目する。 保守一党優位の政治体制がもたらしたものを考える。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したかを検討する。 日中共同声明の意義について検討する。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと自覚する。	6
			98

地理歴史 科 3 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	進学文系	コース	単位数 5 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社)		『詳説日本史図録』 (山川出版)		
	『ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第6章 幕藩体制の確立 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを受け、理解する。 初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	16
5	2 経済の発達 <u>1学期中間考査</u> 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と実証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	15

6	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に反幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大きく役立ったことを学習する。	2 2
7	1学期期末考査		4
8	学力テスト		2
9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	・開国問題と将軍継嗣問題が複雑に絡み合い、大名が幕府派と一橋派に分かれ争ったこと、及び桜田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。 五箇条の誓文、政体書のもつ開明性と五榜の掲示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策	2 0
1 0	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦毎時論に傾いていったことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	1 8
1 1	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	1 8
1 2	6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 西欧の帝国主義型膨張の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかで力をつけていくことを学ぶ。 財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことも理解する。 保守一党優位の政治体制がもたらしたものを理解する。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。 日中共同声明の意義について検討する。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと自覚する。	6
			1 2 1

地理歴史 科 3 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	日本史の整理と演習ウィニングコンパス (とうほう), 詳説日本史図録 (山川出版) 日本史B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出, 小テスト	定期考査 課題プリント, 小テスト	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第7章 幕藩体制の展開 3 元禄文化	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャーを受け、理解する。 貨幣経済の発達や政治・文化にもたらした影響を理解する。	1 3
5	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 1学期中間考査	社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 工場制手工業 (マニュファクチュア) の発達など軽工業の分野における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生について理解する。	
	4 化政文化	文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。儒学や藩校・私塾・寺子屋は教育の発達を促し、多くの人材を輩出したことを理解する。	1 5

6	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵	長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。 五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。	
7	3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 1学期期末考査	自由民権運動の思想的背景及びその階級的な性格、意義を考察する。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを説明する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解する。	18
8	6 近代文化の発達	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解する。	9
8	学力テスト		1
9	第10章 近代日本とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民文化	政党・ジャーナリストは民衆の政治的成長を背景に護憲運動を起こし、閥族支配を動揺させたことを理解する。 第2次護憲運動の結果、護憲三派内閣が成立し、普通選挙法が成立したが、無産階級の台頭を恐れる政党は治安維持法を制定して社会運動に弾圧を加えたことを理解する。 民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意する。	18
10	4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期中間考査 6 第二次世界大戦	戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解する。 満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解する。 日本の中国進出政策がさらに南方進出政策へと拡大され、日中戦争から太平洋戦争へと展開していった過程について理解する。	13
11	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目する。 保守一党優位の政治体制がどのような影響をもたらしたものを考察する。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。 日中共同声明の意義について理解する。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることを理解する。	26
12	演習 2学期期末考査		
			112

地理歴史 科 3 年 地理 B 年間授業計画 (シラバス)				
科目名	地理B	対象	スポーツ コース	単位数 4 単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図	出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2021 (帝国書院), パワーアップ 整理と演習 (帝国書院)			

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	・1年間の進め方と予習復習について理解する。	1
	学習方法習得体験学習	・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、地理の学習方法を体得する。	1
5	III-2-4 ○南アジア地誌	・南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	III-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	・西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	III-2-6 ○アフリカ地誌	・アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8

	<p style="text-align: center;">＜1 学期中間テスト＞</p> <p>Ⅲ-2-7 ○ヨーロッパ地誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。 	10
6	<p>Ⅲ-2-8 ○ロシア地誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。 	7
7	<p>Ⅲ-2-10 ○ラテンアメリカ地誌</p> <p style="text-align: center;">＜1 学期期末テスト＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。 	8
8	<p>*基礎学力到達度テスト問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。 	15
9	<p>*諸地域の抱える課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。 	15
10	<p style="text-align: center;">＜2 学期中間テスト＞</p>		
11	<p>*諸地域の抱える課題について</p> <p style="text-align: center;">＜2 学期期末テスト＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。 	15
12	<p>*諸地域の抱える課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。 	9

地理歴史 科 3 年		地理 B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	進学文系	コース	単位数 5 単位
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2021 (帝国書院), パワーアップ 整理と演習 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・1年間の進め方と予習復習について理解する。	1
		・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、地理の学習方法を体得する。	1
5	Ⅲ-2-4 ○南アジア地誌	・南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	Ⅲ-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	・西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	Ⅲ-2-6 ○アフリカ地誌	・アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8
	<1学期中間テスト>		

6	<p>III-2-7 ○ヨーロッパ地誌</p> <p>III-2-8 ○ロシア地誌</p> <p>III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。 ・ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。 ・ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。 	<p>10</p> <p>7</p> <p>8</p>
7	<p>*基礎学力到達度テスト問題演習</p> <p><1 学期期末テスト></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。 	<p>8</p> <p>8</p>
8	<p>*基礎学力到達度テスト問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。 	<p>20</p>
9	<p>*諸地域の抱える課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。 	<p>20</p>
10	<p><2 学期中間テスト></p>		
11	<p>*諸地域の抱える課題について</p> <p><2 学期期末テスト></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。 	<p>20</p>
12	<p>*諸地域の抱える課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。 	<p>10</p>

地理歴史 科 3 年		地理B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	特進理系	コース	単位数 3 単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新編地理資料 2021 (とうほう), '21 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2021 (二宮書店) 地理B用語集 (山川出版社), ウィニングコンパス地理 (とうほう)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方と予習復習について理解する。	1
5	Ⅲ-2-6 ○アフリカ地誌	○アフリカの地誌を多様性に着目して理解する。	5
	Ⅲ-2-7 ○ヨーロッパ地誌 <1学期中間テスト>	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	10
	Ⅲ-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	4
	Ⅲ-2-10 ○ラテンアメリカ地誌	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	6

6	<p>I-1-1</p> <p>○地理情報と地図</p> <p>・現代世界の地図</p> <p><1 学期期末テスト></p>	<p>○現代の地図や身近な地図について理解する。</p>	6
7	<p>I-1-1</p> <p>○地理情報と地図</p> <p>・現代世界の地図</p>	<p>○地図と地球儀の違いを理解し、地図の描画法を学ぶ。</p>	3
8	<p>I-1-2</p>	<p>○地形図の読図について理解し、読図力を身に付ける。</p>	8
9	<p>・地図の種類と利用</p> <p>I-2</p> <p>○地図の活用と地域調査</p> <p><2 学期中間テスト></p>	<p>○地形図の読図について理解し、読図力を身に付ける。</p>	5
10	<p>*センター試験対策問題演習</p> <p><2 学期期末テスト></p>	<p>○センター試験に向けての問題演習を行う。</p>	20
11			
12			

地理歴史 科 3 年					地理 A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理A	対象	進学理系 コース		単位数	2 単位		
教科書	高等学校 新地理A , 新詳高等地図				出版社	帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院)							

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景, 日常生活との関連を踏まえて考察し, 現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし, それを地域性や歴史的背景, 日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断して, その過程や結果を適切に表している。	地図や統計, 画像など地域に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し, その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって, 学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 1-1-1 ○地球上の位置と国家	○1年間の進め方と予習復習について理解する。 [学習内容] 地図と地球儀 図法 時差 領域 国家 [ねらい] 地球に関する基礎事項を学ぶ。	1 7
5	1-1-2 ○グローバル化が進む世界 <1学期中間テスト>	[学習内容] 貿易 交通と通信 観光 [ねらい] グローバル化を貿易, 交通と通信などから捉える。	6
	1-1-2	[学習内容] 貿易 交通と通信 観光	2

	○グローバル化が進む世界	[ねらい] グローバル化を貿易, 交通と通信などから捉える。	
6	1-2-1	[学習内容] プレートテクトニクス 大地形 小地形	10
7	○人々の生活と地形 <1学期期末テスト>	[ねらい] 大地形, 小地形の形成要因を理論的に学習する。	
8	1-2-2	[学習内容] 気候区分 地域特性 植生 土壌 人々の生活	8
9	○人々の生活と気候	[ねらい] 気候要素など, 気候に関する基礎事項を理解する。	
10	1-2-3 ○人々の生活と産業・文化 <2学期中間テスト>	[学習内容] 農業 工業 生活と文化のかかわり [ねらい] 生活と文化のかかわりを産業面から捉える。	4
11	1-3-11 ○オーストラリアの生活・文化	[学習内容] オーストラリアの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	6
	1-3-9 ○アングロアメリカの生活・文化	[学習内容] アングロアメリカの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	6
12	<2学期期末テスト>		
	1-3-3 ○東南アジアの生活・文化	[学習内容] 東南アジアの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	6

公民科 3年		現代社会		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	現代社会	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	『現代社会』		出版社 東京書籍		
副教材	ライブ！現代社会 2020 (帝国書院) , 要点マスター現代社会演習ノート (東京書籍)				

1 学習の到達目標

- ①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。
- ②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4 月	ガイダンス 学習方法習得体験学習 第4章 現代の経済と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法、年間進捗を確認する。 ・体験学習を通じて学習方法を学ぶ。 	1 学期 25 時間	
5 月	1 経済のしくみ (1 学期中間テスト)	<ul style="list-style-type: none"> ①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長 <p>「産業革命」による技術革新に伴う社会の様々な変化や、企業、市場経済の仕組みについて理解する。価格の働き働きを理解し、独占や寡占、市場の失敗について考察する。経済指標、経済成長について理解し、景気変動について考察する。</p>		
6 月	2, 変化する日本経済	<ul style="list-style-type: none"> ⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政 <p>金融政策、財政制度について理解し、市場や金融、財政の課題について、幸福、正義、公正の観点から考察させる。金融政策、財政制度について理解し、日本の財政をめぐる諸課題を考察する。</p>		
7 月	(1 学期期末テスト)	<ul style="list-style-type: none"> ①戦後復興と高度経済成長 <p>戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。</p>		
8 月		<ul style="list-style-type: none"> ②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在 ⑤中小企業と農家 		
9 月	2, 変化する日本経済	<p>戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。石油危機を契機とした、産業構造の転換、プラザ合意について理解し、バブル景気発生から崩壊まで、そのしくみや要因、影響、対応について理解する。バブル景気崩壊後の日本経済について考え、日本経済が直面する現状と課題について考察する。</p>		
10 月	(2 学期中間テスト)	<p>日本の中小企業が抱える問題、農業問題、バブル景気崩壊後の日本経済について学び、日本経済が直面する現状と課題について考える。</p>		
11 月	3, 豊かな生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会 <p>消費者の権利と問題点、労働者の権利と問題点について理解し、雇用形態の実態と問題点について理解する。社会保障の意義を考え、日本の社会保障制度と抱える問題点について理解する。日本の公害の歴史、その変遷や対策について考える。</p>		
12 月	(2 学期期末テスト) 視覚教材・グループ学習等	<p>国際経済の仕組みと動向や現代の諸課題について視聴覚教材やグループ学習を通じて主体的に学ぶ。</p>		2 学期 31 時間

※理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

公民 科 3 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版		出版社 清水書院		
副教材	高等学校新倫理新訂版ワーク・3ステップス倫理研究ノート問題集・最新図説資料集				

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p>

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関する諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題となげ理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- A. 定期考査の点数8割
- B. 平常点20点
- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
 - ・学期ごとのワーク提出
 - ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ドイツ観念論 功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義 実存主義	<ul style="list-style-type: none"> ・カント哲学を踏まえて観念論について理解する。 ・最大多数の最大幸福を説いたベンサムや不満足なソクラテスを説明したミルの考えを理解する。 ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考える。 プラグマティズムや民主主義の実現と幸福について、デューイの考えを学ぶ。 ・人間疎外の原因に関して、マルクスが説いた唯物史観を理解する。 ・「自己を見つめる」ということについて、キルケゴールの考え方や実存的交わりの考えを説いたヤスバースを理解する。「ニヒリズムを超えて」や「神の死と超人」を書いたニーチェについて学ぶ。 ハイデッガーが書いた「死への存在」やサルトルの「自由と責任」について学ぶ。 	3 9
6	第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容 <u>1学期中間考査</u> 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化 第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学	<ul style="list-style-type: none"> ・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学についても復習という観点で理解する。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日本人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想がどのように説かれたかを理解する。 ・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解する。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な作品を通してその理念を理解する。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達について考える。 	9
7	1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 <u>1学期期末考査</u> 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての 自覚 新たな価値観の模索	<ul style="list-style-type: none"> ・安藤昌益、二宮尊徳について学ぶ。 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行動したかを考える。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのようにとらえたかを理解する。 ・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解する。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粋主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方を理解する。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自我へのめざめの動きを理解する。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解する。 ・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日本の新たな価値観の模索について学ぶ。他者への共感についてマザー＝テレサとボランティアを通して理解する。 ・生命への畏敬、無意識の領域について学ぶ。 	6
8	現代日本と私たちの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る。 ・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また、社会福祉とは何かを考え、 	3 8

9	<p>第3編 5・6節 主体性の確立 他者への奉仕 第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し 科学観の変換</p>	<p>今の民主社会の諸課題を探る。 近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代哲学が展開したのかを探る。実践演習(プリント) それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解する。</p>	7
9	<p>日本大学基礎学力到達度テスト 対策 演習</p>	<p>出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み、到達度テスト対策を行う。 『完全 MASTER 倫理問題集』を活用し2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲は夏季休暇中の課題)</p>	8
10	<p>2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理 演習</p>	<p>それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解する。 『完全 MASTER 倫理問題集』等を活用しながら大学入試共通テストに向けた全範囲の演習をおこなう。</p>	7
11	<p>2学期期末考査</p>		
12			

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民 科 3 年 倫理 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院
副教材	完全 MASTER 大学入学共通テスト倫理問題集・最新図説資料集				

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- A. 定期考査の点数8割
- B. 平常点20点
- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
 - ・学期ごとのワーク提出
 - ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ドイツ観念論 功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり	・カント哲学を踏まえて観念論について理解する。	3
5	社会主義 実存主義	・プラグマティズムや民主主義の実現と幸福について、デューイの考えを学ぶ。 ・人間疎外の原因に関して、マルクスが説いた唯物史観を理解する。 ・「自己を見つめる」ということについて、キルケゴールの考え方や実存的交わりの考えを説いたヤスパースを理解する。 ・「ニヒリズムを超えて」や「神の死と超人」を書いたニーチェについて学ぶ。 ・ハイデッガーが書いた「死への存在」やサルトルの「自由と責任」について学ぶ。	9
6	第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容 <u>1学期中間考査</u> 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学についても復習という観点で理解する。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日本人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想がどのように説かれたかを理解する。	9
7	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触	・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解する。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な作品を通してその理念を理解する。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達について考える。 ・安藤昌益、二宮尊徳について理解する。 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行動したかを考える。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのようにとらえたかを理解する。	6
	<u>1学期期末考査</u> 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての 自覚 新たな価値観の模索	・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解する。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方を理解する。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自我へのめざめの動きを理解する。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解する。	3

8	<p>現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立 他者への奉仕 第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し 科学観の変換</p>	<p>・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日本の新たな価値観の模索について学ぶ。他者への共感についてマザー＝テレサとボランティアを通して理解する。</p> <p>生命への畏敬、無意識の領域を理解する。</p> <p>・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る。</p> <p>・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また、社会福祉とは何かを考え、今の民主社会の諸課題を探る。</p> <p>近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代哲学が展開したのかを探る。実践演習(プリント)</p> <p>それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解する。</p>	8
9	<p>日本大学基礎学力到達度テスト対策 演習</p>	<p>出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み、到達度テスト対策を行う。</p>	7
	<p>2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理 演習</p>	<p>『完全 MASTER 倫理問題集』を活用し2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲が夏季休暇中の課題)</p>	8
10	<p>2学期期末考査</p>	<p>それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解する。</p>	7
11		<p>『完全 MASTER 倫理問題集』等を活用しながら大学入試共通テストに向けた全範囲の演習をおこなう。</p>	
12			

公民科 3年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	進学文系	コース	単位数 3 単位
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』		出版社 清水書院		
副教材	『高等学校 新政治・経済 新訂版ワークノート』 (清水書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。</p> <p>② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。</p> <p>③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察する。</p> <p>④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4	・ガイダンス	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えを確認する。 1年次に学習した内容の総復習（経済分野） 経済活動の意義／経済思想／経済主体／価格と市場／市場機構の限界	1 学期 35 時間	
5	第2編 現代の経済 第1章 現代経済の特質	41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国際 46 日本財政の課題 47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 現代企業の主要な形態や構造、諸問題について考察する。物価変動が暮らしに与える影響や、景気の安定に向けた、政府や中央銀行の政策について理解し、現代の財政政策、金融政策について考察する。 貨幣にはどのような役割があるか、具体的に理解させ金融について考える。また金融の自由化とは何か、金融の自由化によって何が変わったか、理解する。		
6	第2章 現代の日本経済 〈一学期中間考査〉	50 戦後の日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 日本の経済史について理解した上で、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業が日本経済の中で占めている地位と期待されている役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。 公害問題や環境問題についてその原因について理解しその対策について調べ学習やレポート提出によって主体的に考察する。 現代社会が抱える消費者問題、労働問題について理解し、その解決方法について調べ学習やレポート提出によって主体的に考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解し、日本の社会保障制度はどのような課題に直面しているか、財源と医療・介護・福祉サービスの質と量の確保の観点から考察する。		
7	第1編 現代の政治 第6章 国際政治と日本 〈一学期期末考査〉	28 国際社会の形成 29 国際法の進展 30 国際連盟／国際連合 31 国際連合の機能と課題 32 冷戦期の国際政治 33 現代の国際政治 34 核兵器と軍縮の動き 35 国際社会における日本の役割 国際社会形成の歴史や国際法の概念、国際政治における国際連合の役割について理解する。また、冷戦を経ての刻社債社会が抱える問題を理解しと、日本の役割について考察する。		
8	第2編 現代の経済 第3章 国際経済と日本	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割		
9		グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解させる。国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。第二次世界大戦後の国際通貨体制とIMFWTOについて理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。		
10	〈二学期中間考査〉	現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考察する。		
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する		2 学期 45 時間
12	〈二学期期末考査〉			

理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

公民科 3年 政治経済 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	政治経済	対象	特進文系	コース	単位数 3 単位
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』			出版社	清水書院
副教材	政治経済資料集 (とうほう) 高等学校 新政治・経済 新訂版ワークノート				

1 学習の到達目標

<p>① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。</p> <p>② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。</p> <p>③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察する。</p> <p>④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4	・ガイダンス 第2編 現代の経済 第1章 現代経済の特質	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えを確認する。 36 経済活動の意義 37 経済思想 38 経済主体 39 価格と市場 40 市場機構の限界 41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国債 46 日本財政の課題 経済活動とは何か、経済学者の思想に触れ、経済を学ぶ上での基本的考え方を学ぶ。経済主体について、価格の役割について理解する。需給曲線を理解し、「市場の失敗」について考察する。企業の最終的な目的と社会的責任について考察する。また株式会社について、その組織と特徴を理解する。	1 学期 35 時間	
5	(←学期中間考査)	物価変動と国民生活の関係について理解し、適切な財政政策と金融政策について考察する。経済指標、財政の基本的な仕組みについて、理解する。望ましい税制について考察するとともに国債発行による財源の調達の必要性と問題点について理解する。		
6	第2章 現代の日本経済	47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 50 日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 金融について理解する。金融政策とその効果について考察する。金融の自由化による現代社会の変化について理解する。 日本の経済史について理解し、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業の地位と役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。現代社会が抱える諸問題(公害・環境・消費者、労働)について理解し、その解決方法について考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解する。日本の社会保障制度は課題について考察する。		
7	(←学期期末考査)	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割 グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解する。 国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。 第二次世界大戦後の国際通貨体制と IMFWTO について理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。 現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考える。		
8	第3章 国際経済と日本			
9				
10	(←学期中間考査)			
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する		
12	問題演習 (←学期期末考査)	問題演習を通して知識の定着を図る。		2 学期 45 時間

理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。